

今、改めて臨地実習指導とは（基礎編）

2020年度 臨地実習指導研修会が開催されました。研修会の様子と研修参加者アンケート集計結果を報告します。

研修日程：令和3年3月14日（日）9：00～16：00

開催方法：Zoomミーティングによる遠隔実施

研修内容：実習指導における課題の明確化（グループワーク）
課題解決のヒント（講演）
教授活動の自己評価と課題の明確化（グループワーク）
解決状況と解決方法の共有（全体協議）

講演：授業としての看護学実習の特徴

講師 松田安弘（群馬県立県民健康科学大学）

主催者・ファシリテーター

教育活動委員長 嘉手苺英子（沖縄県立看護大学）

副委員長 山内豊明（放送大学）

委員 栗原幸子（沖縄県立看護大学）、服部美穂（人間環境大学）、
前田ひとみ（熊本大学）、松田安弘（群馬県立県民健康科学大学）、
水戸優子（神奈川県立医療福祉大学）、山口みのり（静岡県立大学）

研修スケジュール

グループ
ワーク1

- 開会の辞、オリエンテーション
- 自己紹介
- 学習課題の明確化と共有

講義

- 「授業としての看護学実習の特徴」
講師 松田安弘先生（群馬県立県民健康科学大学）

グループ
ワーク2

- 講義を受けて、教授活動を自己評価するとともに自己学習で解決可能な課題を明確化する
- 挙げた2個について話し合う

全体での
課題の共有

- グループワーク2で解決した課題と残った課題を発表
- すべての課題の類似性に基づき分類・整理し共有する

ヒント

- 課題解決に向けたヒント
（ファシリテーターからコメント）

グループ
ワーク3

- ヒントを得て、自己学習により解決可能となった課題は撤収し、残された課題の解決方法を検討する

全体まとめ

- 各グループから発表
- 閉会の辞、総評

研修の様子

看護学実習の定義

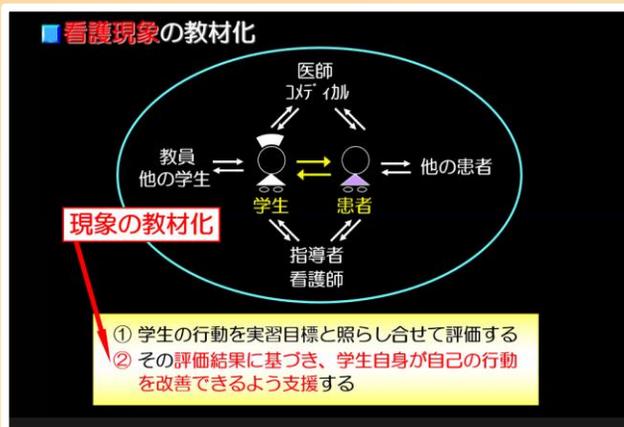
看護学実習とは、学生が既習の知識・技術を基に、クライアントと相互行為を展開し、看護目標達成に向かいつつ、そこに生じた看護現象を教材として、看護実践に必要な基礎的能力を修得するという学習目標達成を目指す授業である。



講師 松田先生



嘉手苺委員長



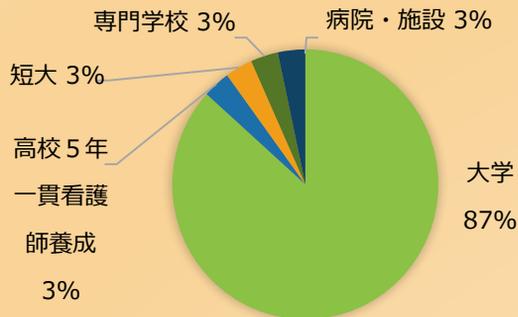
記念撮影



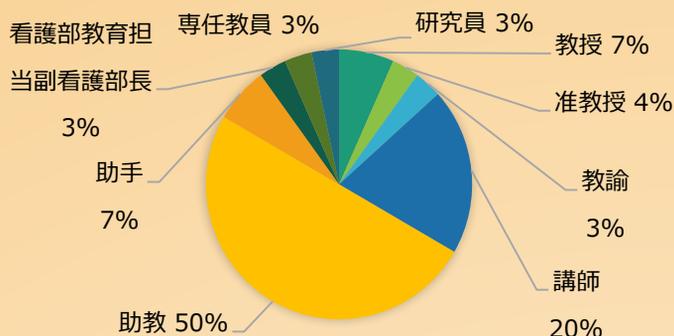
研修参加者アンケート集計結果より

回答30名

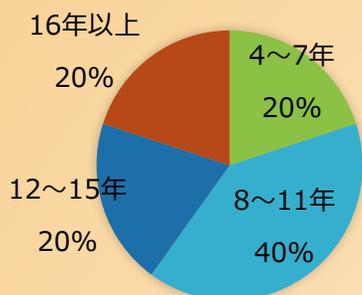
所属機関



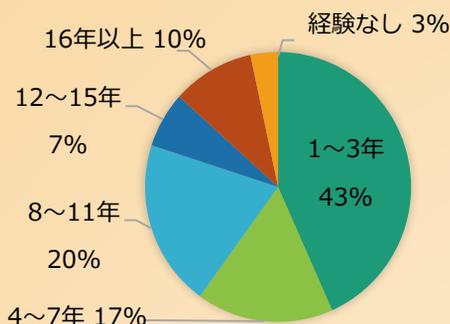
職位



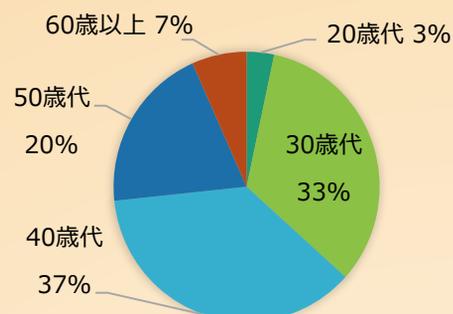
臨床経験年数



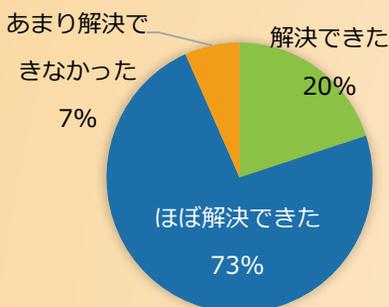
教員経験年数



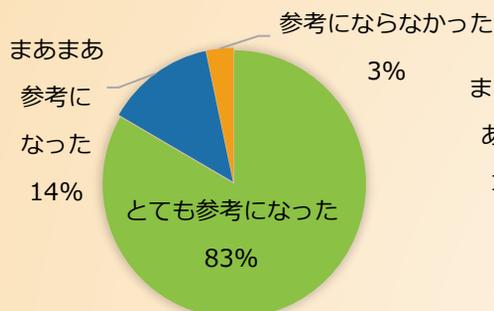
年齢



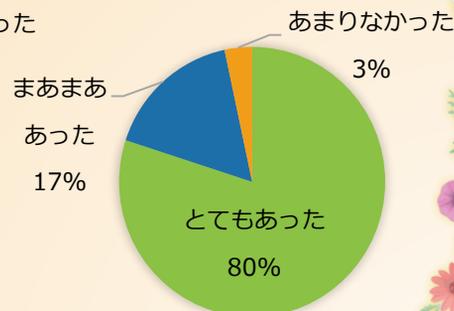
本日のプログラムで
課題は解決できましたか？



松田講師のミニレクチャーは
参考になりましたか？



研修を通して、臨地実習指導に関
する新たな学びがありましたか？



研修参加者アンケート集計結果より

回答30名

研修内容についての意見・感想(自由記載、複数回答あり)

カテゴリ	記述内容	人数
グループワークに関する感想	教員経験の豊富な方もいらっしゃいましたが、共通する課題もあると知り、少し安心しました。今回の学びを反映させていきたいと前向きな気持ちになれました。	4
	さまざまな職位からなるグループメンバーでしたので、それぞれの立場にある教員の思い・気持ちを知ることができ、教員指導にも役立てることができそう	3
	臨床の立場からの意見も聞くことができ、互いの意見をすりあわせることの重要性も実感しました。	2
	各先生方のご助言も、非常に参考になりました。わかっているもできていないことが多く反省点ばかりですが、教員や現場とも情報共有しながら、取り組んでいこうと思います。	1
研修を通して学びの感想	漠然としていた課題が、グループでのディスカッションやミニレクチャーを通して、徐々に具体化、焦点化されていき、貴重な体験ができたと感じています。	3
	大学での看護師養成と高校での看護師養成での違いはあると思うが、共通する悩みもほとんど一緒であることがわかりました。	2
	今回の研修で改めて看護学実習の定義を意識しました。教員は実習で学生に何を学んでほしいか、何を考えてほしいかを忘れず、学生が実習目標に向かって学べるよう関わって行きたいと思います。	2
	実習指導に出る前に、本日のような研修は必要だと強く思いましたし、実習に出ているも自己の指導を振り返るといった意味で、本日の研修は貴重な振り返り・学びの場になりました。	2
	他大学での状況を知る機会ともなり、当たり前だと感じていたことがそうではないこと、恵まれている実習環境であることを実感しました。	1
	本日の研修で思ったこととしては、教育には正解がないからこそ、上司も言葉にすることが難しかったのだなと思いました	1
講師についての感想	松田先生のレクチャーを聞き、肯定的な感情を抱くことができました。これまで感覚的に行っていたものが形式知になったように感じました。	1
	松田先生のレクチャーはとても興味深く、勉強になりました。	1
	服部先生、温かいご支援ありがとうございました。研究による知見、とても興味深かったです。	1
学生評価について	学生評価については形成的評価により実習目標に対しての評価をしていくこと、人物考察をしてはならない事を確認できました。	1
その他の感想	ディスカッションと講義の時間割がちょうどよかった	1
	設問6で「あまり課題解決できなかつた」と感じているのは、まだ経験が乏しく、自分には解決しきれない課題があると考えているからです。しかし、実践経験を通して、自分なりの強みと弱みに気づき、学びを重ねていくことの重要性を実感することができました。	1
	情報交換・意見交換で解決できる課題とそうでないものがあったかと思しますので、そのあたりの整理は必要だったかと思われます。	1
	実習指導初心者に限定せず、様々な実習指導経験者が参加しても良い学びになると考えます。	1

研修参加者アンケート集計結果より

回答30名

本研修会の研修方法（Zoomによる遠隔研修）について(自由記載、複数回答あり)

今までは研修に参加したいと思っても会場まで遠く参加できないこともあったが、オンラインで受講できたのは大変良かったです。また、オンラインではあるが、意見交換をすることができ、一人で悩んでいたことを解決するアドバイスをたくさん頂き、とてもよい時間となりました。	1 2
講義・ディスカッション中心ですのでZOOMでも十分な学びが得られました。	3
全国の様々な先生方と意見交換をできて、とても良かったです。できれば、グループワークの最初に1分程度自己の考えをまとめる時間をいただくと、思考の整理ができたかなとも思いました。しかし、ファシリテーターの先生が適宜発言をうながしてくださり、話しやすい雰囲気を作ってくださいだったので、ディスカッションが進みました。	3
ZOOMでの会議やセミナーも慣れてきたため違和感はない。事前に講義資料も確認することができたため、事前学習することができました。グループの意見をまとめた資料をほかのグループが発表している間もグループ間で共有し確認できるというと思いました。グループの意見をまとめたWordを資料としていただきたいが可能でしょうか。	2
タイムスケジュールとして、前半が少し長かった印象です。午前午後、半々ぐらいの時間配分だと良かったと思います。	1
Zoomでの研修は参加しやすかった。グループワークと同時進行の記録については不慣れな部分もあったため、記録に集中しがちになってしまった。	1

今後の研修の希望について(自由記載、複数回答あり)

コロナ禍の実習指導の在り方 新カリが目指す教育をどのように具現化するか	2
松田先生の講義で、カンファレンスについては「後日」とおっしゃっていたので、そのお話をぜひ	2
講義の中で「現象」を教材化する具体的な事例を用いた講義や、パーソナリティ障害を持っている学生とのかかわりに関する研修を希望します。	2
臨地実習の取り組み状況についての研修があれば	2
研修を受けて実践できたこと、改善できたことを共有できる機会もあれば	1
アドバンスも参加したい 学生への発問の仕方など情報をいただけるような勉強会を希望	1
「実習指導の責任者」や「実習科目責任者」を対象にミクロレベルのFD（シラバス作成や実習デザインなど）の研修を企画してほしい。	1
フォローアップセミナーなど、また皆さんの意見を参考にしたいです。	1
講義や演習という形態ごとに学べると良いと思います。領域別もうれしいです	1
本日のような情報共有やピアサポートなどができる機会	1
「教育的視点」など教育の基本となるセミナー	1
授業や演習の組み立て方についての研修	1
カリキュラム改正に伴う学内演習の工夫、教職員の能力開発（FD/SD研修の効果的な在り方）、効果的な授業設計の方法、実習を十分に体験できなかった新人への関わり方、教え方講座など	1